

会議録

会議の名称	第9回登米市上下水道運営審議会
開催日時	令和5年2月1日(水) 14時00分開会 16時30分閉会
開催場所	登米総合体育館「とよま蔵ジウム」会議室
座長(議長)	会長 山田 一裕
出席者の氏名	大森敏雄委員、及川由美子委員、木村千代委員、佐藤雅子委員、菅原昭委員、鈴木郁子委員、千葉信子委員 以上8名
欠席者の氏名	伊藤秀雄委員、今野秀俊委員、岡本哲志委員、千葉貞雄委員、 以上4名
事務局職員職氏名	上下水道部長 佐藤嘉浩 (経営総務課) 千葉次長兼経営総務課長、佐々木副参事兼課長補佐、 菅原係長、千葉主幹、及川主幹 (水道施設課) 鈴木水道施設課長、佐々木課長補佐 (下水道施設課) 星下水道施設課長、小出下水道整備係長 以上10名
議題	1 開 会 2 挨拶 3 会 議 (1) 会議録署名人の選任 (2) 登米市下水道事業経営戦略について (3) 令和5年度登米市水道事業会計当初予算の概要について (4) 令和5年度登米市下水道事業会計当初予算の概要について 4 その他 5 閉会
会議結果	別紙のとおり
会議経過	別紙のとおり
会議資料	資料1 登米市下水道事業経営戦略の改定について 資料2 令和5年度登米市水道事業会計当初予算の概要 資料3 令和5年度登米市下水道事業会計当初予算の概要 《参考資料》 参考資料1 令和5年度登米市水道事業会計予算書 参考資料2 令和5年度登米市下水道事業会計予算書

別紙

発言者	発言要旨
【1 開会】	
会議資料の確認後、開会を宣言。	
【2 挨拶】	
<p>会長あいさつ 上下水道事業について、適切な予算が保たれていることを皆様の視線から確認して頂き、審議をお願いしたい。</p>	
【3 会議】	
(1) 会議録署名人の選任	
事務局	審議会条例第6条第1項の規定により、会議の議長は審議会会長に依頼。
会長	<p>本日の会議は委員8名の出席で過半数を満たしており、審議会条例第6条第2項により、会議が成立することを報告。 委員名簿順に従い、木村委員と千葉委員を指名し了承を得た。 審議会の公開並びに傍聴、会議録の開示掲載については、登米市審議会等の会議の公開に関する指針第4条並びに第7条の規定により、傍聴席の設置と会議録をホームページに掲載することを説明。</p>
(2) 登米市下水道事業経営戦略について	
会長	「登米市下水道事業経営戦略について」事務局に説明を求めた。
事務局	(資料に基づき説明を行う)
委員	組織の状況ですが、この組織の体系図には、どのような会議があつて、どんな役割があるかなど、自分たちの会議の位置付けが分かりにくい。組織の状況をもう少し図でわかりやすく体系化してほしい。この組織はあくまで市の上下水道事業部の中の組織ではあるが、ほかに会議がどの位あるかなどつけ足していただきたい。
事務局	ただいまのご意見については検討し職員の組織図以外にも、会議等を例えば上下水道事業運営審議会などの記載について検討させていただきたい。
委員	経営戦略の計画の他にもBCP計画などの計画はどの位あるのか、何のためのどのような計画なのか、まとめていただきたい。
事務局	計画の体系づけということで、2ページには、経営戦略や下水道の基本構想、その上位にある登米市総合計画を記載している。今後、統廃合計画等を策定する説明をしたので、現在は体系づけている。
委員	各事業の概要で確認ですが、令和4年12月末のとめ広報では、世帯数が2万7,237人、人口7万4,795人と掲載しているが、この表で公共と特環等、農業集落の計画人口を単純に足しても、5万6,000人。また特排、個排の接続人口を足しても4万7,000人程度である。これらの数字と実際の世帯数、人口の関わり関係、関連性をお聞きしたい。

	<p>2点目、経営基本方針で企業である以上は、人材の育成が重要な位置付けであることは認識しているが、民間であれば、当然事業改革の達成も必要。そのためにはどうするか具体化されるが、この事業計画の達成項目が中長期的な計画もこれから議論されとおもうが、そのあたりの表現も必要と思う。</p> <p>3点目、管渠について、より詳細な台帳を整備するとあるが、まだ100%ではないということよろしいか。この分は減価償却すべて対象に、その償却資産関係の中でも償却資産に該当するものについてはすべて台帳に載っている。どれが詳細なのか説明していただきたい。</p> <p>4点目、PDCAは計画、実行、評価、改善をこういうふうは何ページもプリントしてもなかなか理解しにくい部分がある。PDCAについては、1度実施すれば終わりなく、らせん状に継続するのが基本。回すポイントは、3点、目標を明確に持つち、具体的な目標を掲げいつまでに達成するか。2つ目は、うまくいかない原因の特定。原因を分析し改善方向を見据える。3つ目としては、途中経過の記録。その進捗状況やこのフローの整備が非常に重要で、最終的にPDCAの管理チェック表を準備したので、あとで事務局に提出するが、回数は事務局にお任せするが定期的にこの審議会にPDCAの現状を報告するなど必要だと考える。</p>
会場	以上4点、順次説明願いたい。
事務局	最初の2つ、計画人口については、記載のあるとおり、公共、特環、農集排は区域があり、例えば公共であれば、迫町がメインで、その分の計画面積として942ヘクタールだが、その区域の中にある人口としている。これは特環、農集排も共通してその人数標記となっている。
事務局	詳細な台帳の整備ですが、これは施設台帳を毎年度整備しているが、その更新等のことである。今後の減価償却を出すための資産台帳は持っているが、更新、改築に必要となる施設台帳について、詳細なものを整備する必要があることを記載している。
事務局	事業計画の達成や進捗管理は、事後検証に当たっての報告について運営審議会の方に報告してほしい件についてだが、例えば水道事業のビジョンについては、毎年実施計画の確認ということで報告している。今後はこの下水道の経営戦略についても、毎年度、確認し、事後検証した内容を審議会に報告したいと思っている。
委員	<p>災害への備えは、震災の関係と台風、ゲリラ豪雨によるものなど、浸水被害も想定されることで過去に浸水し被害を受けたが、具体的に、今後どのような対応を行うのか。</p> <p>民間活力の活用に関する事項で、排水設備等工事事業者の申請受け等についても民間委託を検討するとあるが、公の機関が受付をするというのは、それなりに役割があると思うが、民間に委託しても公平性は保たれるのか疑問に思う。公の機関であれば入札制度でやるのか伺いたい。</p>

事務局	<p>災害対応について、まず浸水被害は、今年の7月の豪雨の時にも、マンホールポンプの電気基盤が水没したことや、下水道処理施設内に雨水が流入し、施設の一部がその影響を受けたケースがある。今後、施設内に流入しないような対応や、浸水しない高さまでマンホールポンプの電気基盤を上げるなど様々な対応があるが、どのようなことが、市民に、最善なのかを検討しながら進めていきたい。</p> <p>民間活力の活用については、民間に申請受付等についても委託を検討することですが、これについては現在も、水道事業において、水道工事の受付等をすでに民間委託している。それによって市民に不公平な取り扱いをすとか、そういうことはない。あくまで我々がやっていることの一部を民間にお願いすることであって、最終的には我々の責任となります。</p>
委員	<p>ゼロカーボンシティへの取り組みで、下水汚泥の更なる有効活用と、下水汚泥の更なる有効活用とあるが、今まで下水汚泥をどのように活用してきたのか。今後更なる活用の案があるのか。</p>
事務局	<p>有効活用として、農集排で排出した汚泥は市衛生センターに運び、毎年「タンピくん」という肥料に再利用している現状である。それ以外では、県内県外の処理場で処理をしている現状。今後も、処理施設や方法があれば、有効活用していく考えである。</p>
委員	<p>下水汚泥の堆肥化は、全体の何割ぐらい実施しているか。</p>
事務局	<p>農集排と浄化槽から排出される汚泥は、全て市衛生センターで処理している。公共下水、特環下水の汚泥は、産業廃棄物扱いとなっているので、岩手県にあるセメント工場に持ち込み、加熱処理をした上でセメント合材などにして再利用している。</p>
委員	<p>その経費としては、どのようになっているのか。</p>
事務局	<p>公共下水等汚泥の処理は運搬料など経費を払って行っている。先ほど言った農集排や浄化槽の汚泥処理は衛生センターで肥料すると話したが、売価より数倍高い経費をかけて処理している。経費を賄えていない状況である。</p>
会長	<p>作られた肥料は登米市内で100%消費されているか。</p>
事務局	<p>これまでは在庫を抱え利用促進にアピールしてきたが、この状況の中、肥料価格が高騰したため、「タンピくん」は好調に利用されているようである。</p>
会長	<p>適正に売って、それを財源に下水道事業に戻ってくるようにしていきたいと思う。ぜひ研究し、公共下水道の対価がうまく実現できることを期待している。</p>

委員	不明水の削減の項目だが、雨水も大きな問題だと思うが不明水は管渠の接合部分などから流入、雨水が入ってくるのか。令和3年度では、全体の処理水量の約2割、結構大きいと思うが、金額にすると使用料に換算した場合どれくらいになるか。
事務局	不明水として流入したのもでも、処理するのに施設や設備など電気などを使用するので、その不明水量が増えれば、経費は多く掛かる。水道の漏水と同じように、削減していくことが費用節減に繋がる。不明水対策としてカメラを使い調査し、来年度実施設計を行う予定としている。令和6年度には、不明水の流入箇所の更新に取りかかる考えである。 不明水の金額は今資料を持ち合わせていないので了承願う。
委員	不明水の推移はどういう状況か。
事務局	今手元に確実な資料を持っていないが、横ばいの状況である。
(3) 令和5年度登米市水道事業会計当初予算の概要について	
会長	「令和5年度登米市水道事業会計当初予算の概要について」事務局に説明を求めた。
事務局	(資料に基づき説明を行う)
委員	主な建設改良事業で、4年度に比べると、3億2,600万円増えている。その内訳については説明があったが、保呂羽浄水場再構築事業1億3,000万円はやむを得ないとしても、残りの2億円程度をもう少し圧縮できないものだろうかと思う。今、水道料金を上げようとしている状況の中で、前年対比、3億円以上というのは、住民が納得するのかと思う。老朽化もわかるが、翌年に回せるものはないのかと思う。
事務局	令和5年度の建設改良事業は前年比3億2,642万2千円と増の結果になった。ご指摘の通り、予算編成に当たり部内で支出の圧縮を踏まえながら協議した結果である。 大きな要因は、保呂羽浄水場再構築事業の部分であり、1億3,000万円ほどの増加と合わせ、配給水施設整備事業費で約1億9,700万円の増となっている。今年度工事を予定していた3件分が計画変更により令和5年度に事業が変更となったものである。 もう一つ当年度の特徴は、他事業で行う工事で支障となるその箇所水道管の移設工事が前年度比1億2,700万ほど増加している。道路改良や下水道事業などの事業計画に合わせた工事により、3億2,600万円ほど前年度より増額となった。 施設更新にあたっては、耐用年数等は決められているが、日常点検や消耗部品の交換等を日々しっかり行い長寿命化を図って延命化をしながら更新し、経費の削減をする取り組みも行っているなので、ご理解願いたい。
会長	延命措置や長寿命化は全国的な流れですので、ぜひ日々のメンテナンスを踏まえてできるだけ長く持たせる努力をお願いしたい。
(4) 令和5年度登米市下水道事業会計当初予算の概要について	

会長	「令和5年度登米市下水道事業会計当初予算の概要について」事務局に説明を求めた。
事務局	(資料に基づき説明を行う)
委員	令和5年度の事業費は、他の業者から見積もりもらって、金額を載せてるかと思うが、もっと経費削減できないか、実際事業を行う際、見積もりを取った業者がイコールで受注するものか、金額については、もう予算通りで変わらないのか、或いは年度新しく年度が入った時に、入札して経費が削減できるのかなど教えてほしい。
事務局	発注形態は、基本的に登米市以外でも同じで、最初にその工事の積み上げ積算をして、適切な設計価格をつくりそれを発注する。基本的には一般競争入札で、中には指名競争入札がある。毎年この形態で実施している。
事務局	資材は、例えば大東の雨水排水路工事に特化したものだと、雨水を通す製品の見積もりをもらい、設計に反映させ実施している。その見積もりは1社ではなく、通常は3社から見積もりをもらっている。
委員	入札し落札した金額が今ここに載っているという事か。
事務局	この金額は令和5年度の予算額で見積もりした金額で、令和5年度になり入札を行い、事業を進めていくところである。
委員	上水道と下水道の両方で特別職に私たち審議委員報酬が計上されているが、全く同じ金額が入っているが、これは何回か会議があったうちの半分が上水の方で、半分は下水の方で出すということでしょうか。
事務局	委員のお見込みのとおりであり、令和5年度は4回を見込んでいます。2回は水道事業で、残り2回は下水道事業で積算しています。
委員	浄化槽の設置工事 80 基の予定は、資料を見ると経年的に同じぐらいの基数を設置するが、毎年大体その位の数揃うものか。それとも予算の関係上、待っていただいているような状態か。
事務局	浄化槽の設置は、毎年 80 基程度を実施しています。

【4 その他】	
事務局	次回第10回の審議会を3月17日金曜日に開催させていただければと思います。
【5 閉会】	
大森 副会長	慎重審議ありがとうございました。